



健康小部屋!

はち が か

蜂・蛾・蚊に刺されてしまったら…



夏になると気になるのが、蜂・蛾・蚊などの虫の存在ではないでしょうか？

そこで今回は『夏になると出てくる厄介な虫の対処法』についてお話しさせていただきます。

蜂

良く出る場所：野山、住宅街、市街地周辺

蜂に刺されると命に関わることもあります。 そんな刺傷被害でよく問題になる蜂は、攻撃性のある“スズメバチ科の蜂”です。

巣を見つけた時は？

巣がある木に近づいたり、触れたり絶対しないようにしましょう。 種類によっては土の中に巣を作る蜂もありますので、巣が見当たらなくとも、蜂をよく見かける場所には近づかないようにしましょう。

もし蜂が向かってきたら

とにかく姿勢を低くし、行き去るの待って静かに離れましょう。 手で払ったり、走って逃げたり、むやみに動いたりすると逆に蜂を刺激してしまいます。 蜂は黒色で素早く動くものに反応するため、頭や目の周りを刺される人も多いので、なるべく黒い服や黒い持ち物は避けるようにしましょう（※ただし、白っぽい服装なら絶対に刺されないということではありません）。

蛾・毛虫

良く出る場所：樹木、街路樹

夏から秋にかけて気をつけたいのが“毒蛾”と“イラガの幼虫”です。 毒蛾は毒毛を50～100万本も持っていて、それが人の皮膚に刺さると皮膚炎が発症し、激しいかゆみや疱疹が長く続いてしまいます。 また、毒蛾の幼虫（毛虫）が脱皮した殻や卵にも毒があるので、これらに触れても同様の症状が現れてしまいます。 刺された直後は気づかないことが多いため、厄介でもあります。

イラガの幼虫（毛虫）にも注意

また“イラガの幼虫”に刺される人も多く、刺されると患部に激痛が走ります。 ただし、毒蛾よりも予後は良いので、通常は痛みも腫れも数時間後には軽くなるそうです。 毒を持つのは幼虫の時期だけで、成虫になると毒はなくなるそうです。

もし刺されてしまったら

患部にガムテープを貼って毒毛をはがす処置を数回行い、その後、流水やシャワーで十分に洗い流しましょう。 チクチクし始めてから数時間は、皮膚にまだ毒毛が残っているため、患部を搔きむしらないようにして、ステロイド入り軟膏を塗るようにしましょう。 もしかゆみや腫れがひどい場合は、病院へ行くようにして下さいね。

もし刺されてしまったら

蜂の毒は水に溶けやすいので、すぐに傷口を流水で洗い、血液と一緒に毒をしぼり出しましょう。 腫れや痛みが出てきたら、水や保冷剤などで冷やして、市販の「抗ヒスタミン入りのステロイド軟膏」を塗りましょう。 刺された直後に息苦しくなったり、気分が悪くなったりした場合は、蜂の毒による急性アレルギー反応も考えられます。 人によっては、血圧低下・嘔吐・意識障害などの症状が現れて死に至ることもありますから、このような時は、すぐに救急車を呼んで病院へ連れて行きましょう。



蚊

良く出る場所：人家周辺、水田・山林・草原・沼湖・海岸など

蚊は種類によって活動する時間帯が異なるそうです。 例えば、竹やぶや雑木林でよく見かける“ヤブ蚊（ヒトスジシマ蚊）”は昼間に人を刺します。 反対に、家の中で不快な羽音を立てて安眠を妨げる“アカイエ蚊”は夜だけ刺す蚊です。 その他にも、昼夜問わず刺してくる種類の蚊もいるそうです。

蚊に刺されやすい人がいる？

蚊は人間の汗に含まれる乳酸や、呼吸中の二酸化炭素を感じて誘引される傾向があるそうです。 したがって、運動後や入浴時に刺されやすいのはそのためのようです。

また、お酒を飲んだ後は発汗が促される上、アルコールが分解される際に体内から二酸化炭素が生じてしまうため、刺されやすくなってしまいます。 例えば、夏にアウトドアを楽しみながら飲むビールは最高ですが、最も蚊を寄せ付けやすい条件にもなってしまうそうです。 こういったことは、現段階では根拠が明らかになっていませんが、1つの要因として心に留めておいて下さいね。

